

2020年12月実績概要（メモ）

（2021. 1. 21）

年内の定修もほぼ終了し、誘導品では増産が見られるも依然、前年の並みには多くが届かず。

1. 生産動向

イ) エチレン 517, 800トン

前月比 ▲ 3. 8% (▲20, 400トン)

前年同月比 ▲ 8. 3% (▲46, 700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3. 3 %	-
定修要因等	▲ 7. 3 %	▲ 7. 1 %
能力増減	-	+ 0. 1 %
稼働率変動	+ 0. 2 %	▲ 1. 3 %
生産増減率	▲ 3. 8 %	▲ 8. 3 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月94. 1%* → 当月94. 2% ← 前年同月95. 5%

定修プラント：前月 1社1プラント → 当月 なし ← 前年同月 なし

2020年暦年生産量 5, 923. 5千トン、前年同期比▲7. 7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加とともに定修規模差や稼働率要因からHDPE、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの13品目がプラス。LDPE、EO、EGなどの4品目は稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因を主としてLDPE、PS、塩ビ樹脂、EG、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの13品目がマイナス。MMAモノマー、BRなどの4品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加とともに定修系列数の減少や稼働率要因から、HDPE、PP、PSでプラスとなった。LDPEは主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因を主因にLDPE、HDPE、PSでマイナス。PPのみは前月に続いて微増を維持した。

ロ) 国内出荷

国内の生産活動の持ち直しの動きが続く中、消費面ではサービス、個人消費での足踏の状態が見られることとなった。当月は前月比で、LDPE、PSでマイナス。前月に生産量の低下から出荷が抑えられたHDPEはプラスに戻り、PPは前月並みの出荷となった。

前年比では、PPはフィルム分野、繊維分野、射出成形分野での出荷増加からプラスとなった。他の3樹脂では、LDPEはフィルム分野の出荷が前年並みに復帰したことや、HDPEでは中空成形分野の出荷増、PSは雑貨・産業用分野での出荷増加がみられたが、国内出荷全体ではいずれもマイナスとなった。

ハ) 輸 出

前月比では、中国を中心とした生産面での立ち直りや域内需給の引き締めもあり、引き続き増加基調で推移し、当月はLDPE、HDPE、PPでプラスとなった。PSは前月の輸出货量が多かったこともあり、比較上、当月はマイナスとなった。

前年比では、LDPE、HDPE、PSでプラス。PPのみはマイナスとなった。

ニ) 在 庫

在庫量は、HDPE、PP、PSで増加し、LDPEは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDPE、HDPE、PPで低下。PSは僅かながらの上昇となった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LDPE	▲11, 600	3. 3	2. 9
HDPE	+ 9, 400	3. 2	2. 9
P P	+ 22, 800	2. 8	2. 7
P S	+ 4, 500	1. 5	1. 6

以 上